



## 宮前中学校の生徒に望むこと

校長 渡部 智昭

令和6年(2024年)がスタートしました。本年もよろしくお願ひいたします。  
元日、おせち料理を食べ初詣に行き穏やかな1日を過ごせるかと思っていたところ、午後4時を過ぎて突然の緊急地震速報に驚かされました。程なくして地震による揺れが来てしばらくの間続きました。どこで地震があったのだろうかテレビをつけると、能登半島で大きな地震があったことがわかりました。遠く離れている埼玉県でもかなりの間揺れが続いたので現地は大変なことになっているだろうと思いました。日本海側には津波警報も発令され、避難を呼びかけるアナウンスが繰り返されました。その後も能登半島では地震が続き、その度にテレビ画面には地震速報が表示され続けました。テレビ各局では予定していたお正月の番組を取りやめ、地震に関する報道番組に変更し現地の様子を伝えていました。時間がたつにつれ建物の崩壊や火災により多くの方が亡くなり、行方不明者の救助要請も多数寄せられていることもわかりました。また、救助の様子や避難所の様子なども伝えられ、大きな災害をもたらした地震は「令和6年能登半島地震」と命名されました。地震や津波により被災された方々に心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

話は変わりますが、宮前中学校はコミュニティ・スクール3年目に入り、保護者、地域の方々とともに学校を創っていく「地域の学校」として学校運営を進めております。令和4年度の学校運営協議会で、「学校が子どもたちの活動を通して地域に貢献するとともに、地域からも子どもたちのため学校のためにご協力いただき、お互いが良い関係を築いていけるようにしたい」との思いを伝えました。令和5年度は、生徒が地域貢献を実践できるように生徒による地域ボランティア活動を沢山行ってきました。その中で、昨年6月に「避難所運営訓練」を宮前町と内野本郷の自治会の方々と共に行いました。宮前中は地域の避難所に指定され、災害時には近隣にお住まいの方々が避難できるようになっています。地震などの自然災害はいつ発生するかわかりません。いざと言う時、中学生が避難所の運営に携われるように訓練で動き方を体験しています。もしもの時には、本校の生徒たちが大きな力になってくれることと思ひます。

昨年11月30日の第2回学校運営協議会では、委員の方々に「宮前中の生徒にはこれからのようになってほしいか」を伺いました。いくつか紹介します。

- 様々な課題を抱えた人たち(例えば、障害者、高齢者、経済弱者等)に直面した時に、どのように向き合えるか、自分にできることは何か、何をなすべきか考え、実践できる生徒(人間)になってほしい
- コミュニケーション力や基礎学力を身に付け、素直に自分の持つ人間性を表現できる生徒(人間)になってほしい
- 各地域の行事等にも積極的に参加し、コミュニケーションが取れる生徒(人間)になってほしい
- 将来、自らが生まれ育った地域を支える生徒(人間)になってほしい

今日から3学期がスタートします。生徒たちには2学期終業式で新しい年の目標を考えてくるように話しました。上記のことや生徒、保護者、地域の方々の願ひを受け止め3学期もチーム宮前中としてがんばりたいと思ひます。引き続き本校教育活動へのご理解・ご協力をよろしくお願ひいたします。